

<三学期の保育の視点（願い）>

- ①クリスマスにお生まれになったイエスさまが、いつも共にいてくださり、愛してくださっていることを知る。
- ②一人ひとりが自分のしたい遊びを選び、満足するまでくり返し取り組む。
- ③なかまと一緒に集うこと、遊ぶこと、表現することの楽しさを味わう。
- ④小学校への生活を楽しみに待つ。
- ⑤身の回りのことに意識をもって取り組む。
- ⑥冬から春への季節の移り変わりを五感で感じる。

空気が澄んでよく晴れた日のある朝、タワーから降りてきたAちゃんが、「今日は、富士山がよく見えるよ。先生も見てごらん。」と、私のところに向け寄ってきました。「どれどれ・・・」と言いながら、私もAちゃんと一緒にタワーにのぼり、Aちゃんの指さす方を見てみると、真っ白な富士山が綺麗に見えています。Aちゃんと私は、「あそこに積もっている雪はどのくらいかな。」「この間、ここら辺に積もった雪くらいかな。」「もっともっとたくさん積もっているんじゃない？」などと話しを続けました。

私はAちゃんと一緒に富士山を眺めながら、春・夏・秋・冬を子どもたちと分かち合えてきたことの幸せを感じていました。

「いつか、きっと」を楽しみに

三学期の保育の視点②より

三学期になり、子どもたちは投げゴマ回しを何度もくり返し楽しんでいます。

まずは幼稚園の投げゴマを使って何度も取り組みます。次に保育者は、回すことを覚えたり、回すことが好きになっていく一人ひとりの取り組みを見て、個人持ちのコマを渡しています。（2月中には、全員が自分のコマを持つようになります。）投げゴマは、コマに紐を巻くことにも投げ方にもコツが必要で、はじめから簡単にできるわけではありません。

1月半ばのある日、Bちゃんは、友だちが“自分のコマ”を楽しそうに回しているのを見ていました。



そして「ぼくもやってみる。」と、幼稚園のコマを手に取りました。ところが、紐が絡まったり、あと少しで巻き終わるというところで緩んでほどけてしまったりと、悪戦苦闘しています。やっと紐がうまく巻けるようになっても、投げ方のコツがつかめません。紐を巻きつけては投げ、巻きつけては投げることを繰り返します。「先生、もう一回投げ方のコツ、教えて」と言い、教えてもらったり、周りの友だちからのアドバイスや声援を受けて、何度も何度も続けます。Bちゃんは時々「ああ～難しすぎ」「このコマ、本当に回るの?」「卒業するまでに回らなかったらどうしよう!!」「でも、いつか、きっと回るよね」などと言いながら、諦めずにやっていました。

Bちゃんがコマ回しを続けて数日目、「よーし！今日こそ回してみせるぞー」と力を入れて、コマを投げた時です。Bちゃんのコマがクルクルと回りました。Bちゃんは、『信じられない』という表情で息をのんで、回っているコマを見つめています。近くでコマ回しをしていたCちゃんに「Bちゃん、回った！回ってる！よかったね～!!」と声を掛けられて我に返ったBちゃんは、その後ピョンピョン飛び跳ねながら、喜びを友だちと保育者と分かち合っていました。

翌日Bちゃんは“自分のコマ”をもらいました。その後も大切に色を塗ったり回したりして楽しんでいきます。

なかまと一緒に心身を動かし、成長する子どもたち

三学期の保育の視点③より

お弁当の後の時間「ドッジボールをしよう」と、子どもたちが芝生に集まってきます。コートを描いたり、ボールやハチマキを持ってきて準備をし、ジャンケンで青チームと黄色チームに分かれます。それぞれチームごとに外野の人と、ジャンプボールをする人を決め、ゲームが始まります。

子どもたちは、とにかく夢中になって心身を動かします。チームのなかまがボールにあたってしまった時には「あーやられたー！よし、今度はこっちこそ！」と、相手のチームの誰かにボールをあてた時には「よし！〇〇ちゃん、よくやった！」と、お互いに声をかけ合ったり、励まし合ったりします。時には、「あたって」「あたっていない」ともめたり、同じチーム同士のなかまでもボールの取り合いになって睨み合ったりすることもあります。でも、これまでのリレーや鬼ごっこの積み重ねの中で成長した子どもたちは、ほとんど大人の介入無しに自分たちで話し合い、折り合いをつけ、次へと繋げていっています。一人ひとりの成長を感じます。

三学期の子どもたちの中にはコマ回しの B ちゃんのように、自分のしたい遊



びを選び取り、何度も取り組み達成感を味わっている姿があります。また、ドッジボールをする子どもたちのように、ルールを守ることを知り、なかまがいるからこそ分かち合える喜びや悔しさ、響き合いを体験している姿もあります。

一人で取り組むこと、なかまと一緒に取り組むことの両方のよさを感じながら過ごしている子どもたちです。

ここで出会った事、物、人の一つひとつが子どもたちの糧となり、これからの歩みの一步一步を支えていくことを信じ、祈っています。 (佐々木 花)